

「行政視察報告書」

(視察・調査の経過及び感想)

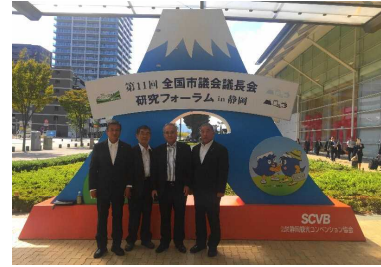
日 時 平成28/10/19 (水)～21 (金)

1. 視察・調査の経過及び感想について

(1) 静岡県静岡市 10/19 (水) 13:00～17:00

「全国市議会議長会研究フォーラム第1日目」について

スーパーはくと2号、新幹線のぞみ116号、同こだま642号、JR東海道線を乗り継いで東静岡駅に到着。新幹線は止まらないが、新規に開発したと思われる市街地で大きなビル・公共施設等が目立つ。全国からこの大会に参加する議員の列に沿って会場へ。会場前では記念写真用ということで職員がおられ、写真を撮っていただく。会場へ入ると受付、会場への案内と静岡市内はもとより静岡県内あるいはブロック等の関係者の方々が対応にあたられている。全国大会規模の会の開催にあたっての関係者の周到な準備・運営に敬意を払う。



会場では静岡市議団の皆さんによる歓迎の太鼓が披露されていた。会場内には2500名ほどの参加者でいっぱいであった。



開会行事に続き、基調講演「二元代表制と議会の監視機能」(東京大学名誉教授大森彌氏)、パネルディスカッション「監視権の活用による議会改革」(コーディネーター山梨学院大学教授江藤俊昭氏、パネリスト4名)と続いた。



基調講演の主旨は次のとおりである。

- ・地方議会は地方自治の根幹をなす機関である。
- ・二元代表制といいながら国の考えを通しやすいように首長を味方にした方が都合がよい仕組みとなっている。
- ・国会と内閣の関係とは異なり、地方議会に与党野党はない。

あえて言うなら首長に対する野党であって欲しい。

・議会も一つの機関。任期の間にどのようなことを行うか、次の選挙の時に支持されるようなことを行うかが大切。

・議会は権限を持ちながら、重要な決定をしながら責任をとらない。なぜ? 予算編成、条例など誰が企画立案するのか。多くは行政であるからである。

・現制度の中で議会の権限をどう示すか。議会は討議をするために集まっている。本来は二元制では対立があるはず。そのためには意思の調整が必要であるが、ほとんど無修正である。チェックは? 真の二元代表制であれば「チーム議会」にならないなければならない。大津市議会などの活動は参考になる。



パネルディスカッションでは「監視権の活用による議会改革」をテーマにパネラーの4名、齊藤誠氏「法的視点から見た監視権の活用」、土山希美枝氏「政策・制度の議会による制御としての監視・監査」、谷隆徳氏「メディアから見た議会の監視権」、栗田裕之氏「監視権の活用による議会改革～静岡市議会の取組」という視点での発表がなされ、コーディネーターによって議論が深められた。



(2) 静岡県静岡市 10/20(木) 9:00~11:00

「全国市議会議長会研究フォーラム第2日目」について

宿泊地の藤枝市のJR藤枝駅から東海道線で約30分で東静岡駅に移動。全国市議会議長会研究フォーラムの会場へ向かう。

研究フォーラム2日目は、課題討議と閉会行事である。課題討議のテーマは「監視権を如何に行使すべきか」ということでコーディネーターは佐々木信夫氏(中央大学経済学部教授)であった。

3名の事例報告、佐賀和樹氏(藤沢市議会前副議長)「議員はどうあるべきか〜100条委員会を通じて」、井上直樹氏(和歌山市議会議会運営委員会委員長)「附属機関への参画と監視機能」、嶋崎健二氏(日田市議会議長)「地方創生に関する政策提言〜日田市議会の取組」をもとに監視権を如何に行使すべきかというテーマに切り込んでいくものであった。それぞれがパワーポイントを使いながら、具体的な取組内容を発表していただき本市の議会活動にも参考になる点があった。

閉会行事では静岡市議会から次回開催地兵庫県姫路市への引き継ぎが行われた。今年度の研究フォーラムは鳥取県の参加者は倉吉市の6名であった。お隣の県での開催ということもあり、鳥取県内の市議会議員の多くの参加を望む。議員活動研修の一環として有意義な会であることを実感し会場を後にした。



(3) 神奈川県鎌倉市 10/20(木) 14:30~15:30

「神奈川県立近代美術館鎌倉別館」について

JR東静岡一静岡駅、JR新幹線静岡一新横浜駅、JR横浜線新横浜一横浜駅、JR湘南新宿ライン横浜一鎌倉駅と乗り継いで視察地へ到着。鎌倉市は、日本初の武家政権「鎌倉幕府」誕生の地として有名である。また、三方を山に囲まれ、一方が海に面した地形から自然にも恵まれており、鶴岡八幡宮、鎌倉の大仏等多くの観光客の訪れる街である。駅を降りるとしゃれた駅舎や町並みが開けている。

視察地の美術館は鶴岡八幡宮に近い八幡宮前で昼食。昼食後、八幡宮に参拝して目的地に向かう。八幡宮には多くの観光客、修学旅行の児童・生徒であふれていた。道路状況や駐車場の関係なのか平日なのにかかなりの渋滞が続いていた。

神奈川県立近代美術館鎌倉別館に到着。鎌倉別館は、1984年、常設展示スペースの確保と収蔵スペース拡充のため元県営駐車場の敷地に建てられた。建物建設に先立って行われた発掘調査の結果、室町期の鶴岡八幡宮二十五坊跡の遺構が出土し、当初の計画よりも建築面積が縮小、延床1600㎡、展示床面積483㎡である。芝生の前庭には、現代彫刻が野外展示されており、緑の多い周囲の環境と美しい調和を見せている。

視察日には「松本竣介一創造の原点」を開催中であった。松本竣介は病で36歳という若さでこの世を去った。鎌倉



別館が開館してからしばらくの間、展示室の一部を「松本竣介コーナー」として展示替えしながら作品を紹介、2012年には生誕100年を記念し葉山館で大規模な回顧展を開催するなど鎌倉別館の一つの軸となっている画家である。松本竣介の油絵、素描とあわせて彼と関わりの深い作家の作品が展示されていた。また、担当学芸員によるギャラリートーク、連続講演会「松本竣介 その魅力をさぐる」等美術館としての軸を持ち続けている。時代を超えて人々を魅了させる、入館していただける美術館の一つのあり方であろうと思った。



(4) 東京都 10/21(木) 9:00~15:00 「要望活動、美術館および公共施設等視察」について

本日の目的は、要望活動と国際遺産に選定された国立西洋美術館等の視察である。時間を有効に活用するためタクシーを利用して移動。宿泊先のホテルを出発、約束の要望活動の時間までの間を使い靖国神社・遊就館へ。平和な国家を建設するという願いを感じながら神社境内を散策。その後遊就館に入館。展示品や資料の数々から先人の願いや、国づくりのために捧げられた人々の思いに直接ふれることができた。

永田町の衆議院第2会館へ移動。多忙な中を時間をとっていただいた石破茂衆議院議員とお会いする。本市の状況や地方創生に向けた取組への支援をお願いする。石破茂衆議院議員からは本市の取組のさらなる充実を期待すること、国内外の新しい状況について、国のかかえている課題や方向性、TPP問題やアメリカやロシア等との関係づくりなどについてお聞きすることができた。

上野の国立西洋美術館に移動。公園内には様々な集客施設があり修学旅行客など多くの人で賑わっていた。国立西洋美術館のコレクションの原点はフランス近代の絵画・彫刻を中心とする「松方コレクション」にある。オールドマスター絵画、クロードモネの睡蓮等の写実主義や印象派の近代絵画、ロダンを中心とした近代彫刻等見応えの多い作品が展示してある。

この美術館の特徴は作品のすばらしさと併せて美術館建築である。フランスで活躍した建築家ル・コルビュジェによる「無限成長美術館」を体現している。また、「モデュール」という定規やアイデアが館内に活かされている。ピロティ、四角いらせん状の空間、見通しのある空間、トップライト等建築と作品を楽しみ、いつまでも時間を過ごしたい気がする美術館である。世界遺産を体感。

東京都江戸東京博物館へ到着。両国国技館の隣にある博物館で、エレベーターで常設展示室のある6階から5階へ。6階は「江戸ゾーン」、5階は「江戸から東京へ 東京ゾーン」になっており、様々な資料や建物と暮らしぶりが体験できるようになっている。この施設は都立の施設である。インバウンドの観光客にも対応できるよう日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・スペイン語の掲示やそれぞれのボランティアガイドも無料で行っている。また、展示音声ガイド、点字ガイドブック、車イス・ベビーカー等の貸出などバリアフリーに対応した施設や人的支援を行っていることに感心した。

2. 視察・調査を終えて

「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂きました。お忙しい中われわれのために対応して頂いた関係者の皆様、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂いたことに感謝いたします。

視察最終日の午後にはマグニチュード6.6、震度6弱の地震が鳥取県中部を襲うという状況の中、視察を終え当日中に何とか帰倉できました。この間、避難所をはじめとする被災現地の訪問と調査、諸活動にあたり報告が遅くなりましたことお詫び申し上げます。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。ありがとうございました。

